

日本のワイン産業の振興と発展を目指して

● 一般社団法人葡萄酒技術研究会

TOPICS

葡萄酒技術研究会設立60周年記念式典

6月9日、甲府市のホテル談露館において葡萄酒技術研究会の設立60周年記念式典が開催され、全国からワインメーカーの醸造責任者や研究者ら約120人が出席した。

同研究会は、1956年に山梨大学の小原巖先生や山梨県醸造研究所(現県工業技術センター)の風間敬一先生などの提唱により、我が国のワイン産



記念式典・シンポジウム

業の振興をぶどう栽培や醸造技術の面から支えていくことを目的に、官学産のワインに関わる関係者36名により発足された。

2006年には国際基準に沿ったエノログ(ワイン醸造技術管理士)の認定制度を日本のワイン業界に定着させるために「エノログ部会」を発足させ、2009年に一般社団法人葡萄酒技術研究会(設立時代代表理事:天野義文)として法人化、組織の強化と運営の拡大に努めてきた。その後、3年間の国際的な活動を経て、2011年12月の国際エノログ連盟パリ総会で連盟への加盟が承認された。

研究会では、国産ワインの品質向上に向け、醸造とブドウ栽培の両面から業界を牽引するとともに、ワイン醸造技術の資格定着と会員拡大にも努め、最近では生産者だけでなく飲食店なども加入し、会員の裾野を広げている。

記念式典では、元会長の後藤昭二氏、初代代表理事の天野義文氏、初代専務理事の渡辺正平氏の功労者3人に感謝状が贈られた。

また、記念講演会・シンポジウムでは、ワインコーディネーター&ジャーナリストの石井もと子氏による「日本のワイン発展の方向性」

と題する記念講演と、「風土の特質とワイン醸造」をテーマにエノログ部会長の松本信彦氏がモデレーターをつとめ、全国の産地よりパネリストが参加して意見交換が行われた。

ここ数年、日本全国に新しいワイナリーが誕生し、未熟な技術で醸造されたワインをワインの個性であるかの如く主張する醸造家もいる。戸塚会長は「『欠陥は個性ではない』という立場で、エノログの認定者を中心にワイン醸造技術の向上を図り、本物の国産ワインの普及に寄与していく」と述べた。



戸塚昭会長の挨拶